

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針と基本理念を、グループホームの入口や各ユニットに掲示し、職員が意識するようにしている。	現在、法人全体の理念で共有されていますが、グループホーム独自の理念を検討されています。	職員一人一人が理念を出し合って、グループホーム独自の理念を考えられて実践される事を期待しています。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々に、苑の行事や地域対抗カラオケ大会等に参加して頂き、入居者と一緒に楽しんで頂いています。年数回ある地域の溝掃除や川掃除にも参加。	法人全体での夏祭りや敬老会、書道・絵画などに参加されて地元のボランティアの方々の繋がりもあり、地域の清掃活動に参加し交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集会所で行われる、認知症の方への安心声かけ訓練等に参加し、地域の方と一緒に取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の高齢化・重度化の現状報告・ヒヤリハット報告・事故報告・一日の暮らしの流れ・苑の行事への参加等を報告し、話し合いを行う。	二ヶ月に一回の開催を行い、家族・行政機関の職員・自治会長・民生委員が参加されています。事故・ヒヤリハットの検証・行事予定・勉強会等が行われています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域密着型サービスの地域ケア会議に参加し、また運営推進会議へは毎回出席をして頂き理解を得ている。	運営推進会議を通じて、地域の認知症サポーターとして活動を行ったりして協力関係を築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロの手引き」を職員で回覧し、介護現場での具体的な「ベッドから転落防止のベッド柵等について」など、正しく理解をしている。	日中は施錠せずに、法人全体での見守りが行われています。研修や人権委員会で取り組まれています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待の防止」（通報・届出・相談）を各ユニットの目立つ所に掲げ、意識の高揚を図っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市からの指導通り、各ユニットの委員を置き外部の研修に参加し知識を共有すべく、その内容を全スタッフに周知している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込みの時点でグループホームでできること、出来ないことを含め明確に説明し、理解・納得を頂いた上で契約して頂くようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議及び家族会において、忌憚ない意見を求めている。</p>	<p>二ヶ月毎に運営推進会議を行い、家族様からの意見を頂いたり、面会時に聞き取りを行い、職員が共有できるようにしています。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に1回全体会議を実施し、各部署の取り組みに対する意見や提案を聞き、職員意見の反映を行っている。</p>	<p>朝礼や申し送りでの職員の提案・意見を聞き、会議等で反映できるように努められています。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>上記の提案の推進、また職務資格取得を勧め、それにかかる費用の負担を行っている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「和歌山県認知症支援協会」や「県長寿社会」「和歌山医大」等が推奨する研修に積極的に参加している。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域ケア会議において、地域密着型サービス事業所間で情報を持ち寄り、事例検討を含め意見交換を行っている。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に施設見学をして頂き、本人・家族と面談を行い、困っている事・不安に思う事・要望等を聞かせて頂き、信頼関係作りに努めています。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族が不安に思う事や要望に対し、施設での対応を具体的に説明を行います。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で得た情報を基に、アセスメント・担当者会議を実施し、解決すべき課題を導き出し、支援に努めています。	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、職員も一緒に日常生活を送ることで、暮らしを共にする意識を持ち関わりを持っています。	
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの家族関係を理解し、本人と家族の良い距離を保ちながら、家族と共に本人の支援を行っています。	
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での友人関係を大切にし、特養・デイサービス・他のユニットへの訪問を実施しています。	気候の良い時期に「故郷訪問」を計画していましたが、身体状態の低下に伴い回数が減少しています。しかし、馴染みの方の訪問もあり、関係継続の支援が行われています。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や人との関わりを把握し、職員が間に入り利用者同士が良好な関わりを持てるように支援しています。	
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する特養に留まらず、病院や他施設また家族宅等、近隣に移動された場合には、時々、様子伺いの連絡をさせて頂いたりしている。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族と面談を行い、アセスメントを実施し全体像を把握して、利用者・家族の望む暮らしを把握しています。困難な場合にも、本人の気持ちに寄り添う支援を行います。	入居時に生活史アンケートを提出して頂き意向を確認して個別シートを活用されています。その人らしく生活が送れるように配慮されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	課題分析標準項目を作成し、生活歴・生活環境・サービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	D-3シートを活用し一日の生活パターンを把握し、課題分析表から本人の有する能力を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回モニタリングを実施し、本人・家族・ケース担当者の意見を反映し介護計画を作成している。	利用者の様子を日々観察し、家族とは面会時に話し合い定期的に計画の見直しを実施されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的に「D-3生活リズムパターンシート」を中心に個別の記録を記入し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では、地域医療・主治医との連携を図り、必要に応じ往診を依頼し対応している。家族から経済的な理由から特養への入所の要望に対し、特養との連携を図り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で行われる文化祭や地元の小学校で行われる地域の方の芸能発表会に呼んで頂き見学させて頂いている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には主治医や協力医を受診して頂くが、希望や必要に応じて専門医の紹介を受け受診して頂いている。	ほとんどの方は提携のクリニックの往診を受けているが希望や必要性により他の病院等受診し、定期受診は職員で対応し、ご家族にも協力頂きながら支援されています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	特養の看護師と「医療連携体制加算」の契約を結び、決まった日以外にも相談し、日々必要な処置対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に介護サマリーを提供し、医療機関との情報交換に努めている。スムーズに退院が行えるように、入院中も病棟担当医との相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が重度化し対応が困難な場合やターミナルケアについては、家族と面談を行い施設でできることを十分に説明をさせていただきます。	重度化に応じて、施設の体制を十分に説明し、協力医療機関の協力得ながら希望に応じて看取りにも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」「応急手当講習テキスト」を配備、指導し研修等で新しい情報を得るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年に2回の避難訓練を実施し、救命技術向上を図っている。	年に二回の避難訓練や災害時の備蓄もされています。海南市の避難所として指定され、法人全体での対応を計画中です。	備蓄の量なども検討されています。計画中の地域の方との連携についても実行され記録に残して行かれますように期待しています。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>基本理念に基づき、入居者の尊厳を大切にしている。</p>	<p>職員は外部研修を受けるように支援されています。又、利用者の尊厳を大切にされた対応について常に意識できるように取り組まれている様子が伺えます。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の会話や行動から、生活の目標を持つように支援し、本人の意思を尊重し自己決定が出来るように努めています。</p>		
38	15	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>居室での静養やプライベートな時間を大切に、年齢や体力を考慮し一人ひとりのペースに合わせた支援をしています。</p>	<p>研修などで職員の意識も高め、言葉かけも優しく、その方の意向やペースを大切にしよう取り組みがなされています。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洋服やスカーフ・帽子等を職員と一緒に選び、コーディネートをする楽しみが持てるように支援しています。</p>		
40	16	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>得意な事や出来る事を活かし、野菜の皮むき・料理の盛り付け・食器洗い等の食事の時間が楽しい時間になるように支援している。</p>	<p>準備等は職員で行われていましたが、職員とテーブルを囲み自然に会話の中から好みや食べたいものなど聞き取りながら支援されている様子が伺えます。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスを考え、好みの物を取り入れた献立表を作り、調理を実施しています。水分は一日1500ml摂取を目標にしています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>介助が必要な方には、クルリーナブラシ・口腔シートを用い、状態に合わせた口腔ケアを実施している。</p>		

43	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>D-3生活パターンシートから排泄パターンを把握し、声かけによる尿意・便意の確認・適時トイレ誘導を行えるように努めている。</p>		
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事に野菜・海藻類を取り入れ、一日1500mlの水分摂取量を目標とし、食事前の機能訓練・口腔体操に取り組んでいます。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>できるだけ入浴回数や入浴時間帯の希望に添えるように支援をしています。一人ひとりのペースに合わせ、入浴を楽しめる支援をしています。</p>	<p>入浴の好きな方や、嫌いな方等の状態に応じて、毎日の入浴や時間等のタイミングを工夫しながら支援されています。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>午後からの休息を促したり、逆に不眠症の方には日中レクに参加して頂き、夜間入眠しやすくなるように支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人服薬管理表を作成し、効能・効果・副作用についても記載している。職員全員に配布し服薬介助の理解に努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の生活史アンケートや課題分析項目の生活歴の中から、趣味や特技などを活かし、張り合いや楽しみを持てる支援をしています。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望に沿った、デイルームでの苑の行事・クラブ活動への参加を支援している。家族の協力で外泊・外食や地域の文化祭等への参加を支援している。	初詣や花見、遠足など季節に合わせた外出のほか、故郷訪問と題してお一人おひとりの思い出の場所を聞き取り、訪問する支援がご家族の協力を得ながら行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難な方には、家族と相談し事務所管理とします。可能な方には家族に確認しながら本人で管理されるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と相談し確認の上、本人の大切な人への思いを尊重し、電話のやり取りができるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を基調にした建物、決して広すぎない空間で、中庭には花を植え、春と秋には野菜作りに畑に出かける等、季節感、生活感を提供している。	木を基調にした建物で光がよく入り、木の手すりがあり、ちょっと外へ歩きに行くこともでき、気分転換や歩行訓練がしやすくリビングには入居者がよく集まり楽しい時間を過ごされている様子が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でのプライベートな時間を大切にし、ダイニングでの他者との交流、他のユニットの人との触れ合いなどの機会を持ち支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、家で使っていた小物入れや、思い出のある写真等を部屋に飾り、居心地よく暮らせるように工夫をしています。	冷蔵庫や家具、仏壇など持ち込みができ、ご家族様に季節ごとの入れ替えなどのご協力を受けています。写真や作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物に合わせた木の手摺を設置し、安全に歩行が出来るような環境づくりをしている。男女のトイレの表示、手洗い・うがいの表示をしている。		



V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない